



トコロん
© 所沢市

わかたけ

No. 102

令和7年10月1日発行

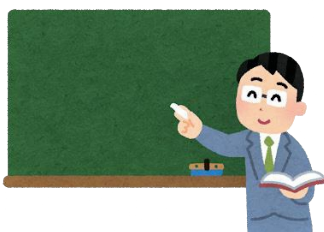
●発行：青少年育成所沢市民会議
●編集：わかたけ編集委員会
●事務局：こども未来部青少年課
☎ 2998-9103

4月1日から所沢市教育委員会教育長に就任しております岩間健一です。
このような機会をいただきましたので、少し自分の歩みを振り返りながら教育に関する所感を述べたいと思います。
私は昭和58年に所沢市で中学校理科の教員となり、本市の中学校3校で20年間、教員生活を送りました。その後、市や県の教育委員会に勤務し、所沢市内3校の中学校長を務めました。
新任の頃から、「子どもが意欲的に活動する授業を創りたい。」という思いがありました。しかし、最初からそんなにうまくできるわけがありません。様々な工夫をしながら、子どもの活動を増やすような授業を行いました。市の研究員などにもなり、教材研究の意義や奥深さを知りました。学級経営は、信頼関係を基盤とするものということ



『教育観』を
問い直す
教育長 岩間 健一

20代後半から3年間、日本人学校で勤務する機会をいただきました。海外での暮らしは、大きく視野を広げることにつながりました。また、小学校1、6、3年の担任をした



を、実践を通して学びました。それでも今思うと、当時はまだまだ教師としては本当に未熟でした。当時の教え子たちも、今は50代半ばになり社会で活躍しています。今でも毎年同窓会を開いてくれて、まさに教師冥利という言葉のとおり私の楽しみの一つになっています。



日本人学校小学部6年生卒業式

ことは、子どもの成長過程を時間軸で捉えることに繋がりました。経験のなかった小学校での授業は、日々、子どもと一緒に新たな発見がありました。そのことが私自身楽しく、意識をしていたわけではないのですが、結果として子どもたちと同じ方向を向いて、共に学ぶことを追究していくという姿勢が生まれたと思います。
帰国後は再び中学校の教員となりました。しだいに子どもが自分達でやってみたい実験や観察を選択したり、自分の追究したい課題を追究したりするような授業を行えるようになっていきました。私の中の「教育観」が徐々に確立されていきました。「教育観」とは、授業観（授業とはどういうものか、どうあるべきか）、子ども観（子どもとは本来、どのような存在か）、指導観（指導するとは…）、学力観（学力とは…）等々を総称したものです。「観」とはいわゆる価値観とも言えます。もう少し広く解釈すると、その人の見方や考え方も含まれます。例をひとつ挙げれば、どのような「子ども観」を持っているかによって、子どもへの接し方や指導は大きく変わってきます。わかりやすく2つの例を挙げます。

※子どもは教えられ、指示されなければ学ばないという「受動的学習者としての子ども観」を持っていれば：子どもは教えられ、指示されなければ学ばないのだから、教え込もうとするでしょう（熱心であればあるほど…）。
※子どもは本来、学ぶ意欲を持ち、自ら追究し、自分で自分を創っていく力を持っているという「能動的学習者としての子ども観」を持っていれば：子どもは本来、学ぶ意欲を持ち、自ら追究し、学ぶのだから、「学び」が誘発されるような環境設定（条件

整備)に努めるでしょう(どのような課題を設定するか、どのような事象を提示するか等)。

このように「子ども観」は判断や指導の基準(拠り所)となるもので、どのような「子ども観」を持っているかで、同じ状況に対しての対応も全く異なってきます。

本来、子どもが「能動的な学習者」であることは、小さな子どもが身の回りの様々な物事に興味を持って、大人がハラハラするほど動き回る姿ひとつをみても明白です。もちろん人は年齢を重ねるにつれ、様々な経験や学習をして、知識や技能を身に付けていきますから、いつまでも小さい頃と同じように身の回りのことに興味関心を示すわけではありません。ですので、子どもの本来持っている能動性を発揮するような学習には、子どもが学ぶことに必要感や必然性を持つような環境設定・条件整備(題材・教材・事象との出会い、子どもへの問い等)が必要になるのです。

子どもはまさに「若竹(わかたけ)」のように、日々、大人も驚くような素晴らしい勢いで成長していきます。その姿を見て、子どもを「受動

的な学習者」と考える人はいないでしょう。

「能動的な学習者としての子ども観」に立つて、実際に授業を構築していくと、子ども達は意欲を持って自ら課題を見つけ追究していくようになります。字数の関係もあり、このあたりの具体例まではご紹介できませんが、飛躍的に力をつけていきます。子どもも教師も同じ方向を向いて共に課題を追究していくようになりますので、授業を参観された方は、皆様に「とても楽しそうに学習していますね」という内容の話をされます。



最近私が思っていることは、教育の根幹にかかわる「子ども観」、「授業観」といったいわゆる「教育観」にもっと焦点を当てるべきではないかということだと思います。どのように指導するかという方法や方策も大切で、それらの研究には

優れたものがこれまでにたくさんあるのですが、「教育観」に関するものは、それに比べると案外少ないのです。実際に「教育観」について学ぶことは、大学の教員養成課程でも、教員になってからもあまりありません。ですので、多くの教員や指導者は自分が受けてきた教育をイメージして、子どもを捉えたり、授業を行ったりしていることが多いと思います。

青少年の健全育成には、日々子どもに接する大人の「教育観」が、大きく影響することは間違いありません。前述したような「教育観」は、理論として知ることと、日々の子どもとの実践から実感することが大切で、双方を通して次第に自分のものになっていくように思います。

三つ葉の提言をすすめる 市民の会より

私たち三つ葉の提言をすすめる市民の会は、所沢市青少年問題協議会が提言した「青少年を健やかに育むために」・今・私たちが出来ること・(通称「三つ葉の提言」)を市民に広めることを目的に発足しました。

市内にある児童館を回り、

青少年を育むために地域・家庭・学校の連携を深めるための広報活動を行っています。家庭でも、地域でも、学校でも、どこでも子どもたちに声をかけ、あいさつし、時には注意をする。大人が出来ることから始めてみませんか。



児童館での活動の様子



夏休みに中学生を対象とした「地域ジュニアリーダー養成講座」を開催しました。

この講座は、所沢市教育委員会と所沢市子ども会育成会連絡協議会が運営しており、地域行事のお手伝いなどを

きっかけに、異なる年齢の子どもたちとつながりながら、大人と共に地域を支えていくための知識を学ぶことができます。

当日はさまざまな学校・学年の中学生が集まり、リーダーの役割について学んだり、理想の地域行事について、グループで話し合ったりしました。受講者へは修了証と認定バッジが授与され、地域ジュニアリーダーとしての第一歩を力強く踏み出しました。



養成講座は今後も実施される予定です。多くの中学生の参加を期待しています。

開催情報はこちらから！



青少年の被害・非行防止強調 月間街頭啓発キャンペーン

令和7年7月12日（土）、所沢市と共催で、「青少年被害・非行防止強調月間街頭啓発キャンペーン」を所沢駅周辺で実施しました。

当日は、市長、議長、教育長、警察署長をはじめ、総勢131名の方々にご参加いただきました。



配布活動の様子

開会式を所沢駅東口の長者久保公園で行い、その後は所沢駅西口、東口、プロペ通り、昭和通りにて、約1600部の啓発リーフレットを配布しました。

中学生ボランティア「ジュニア推進員」も2名参加してくれました。また、当会議以外の団体からも多くの方々にご参加いただきました。ご協力ありがとうございました。

「青少年相談員」募集中!

青少年相談員は、埼玉県知事・所沢市長から委嘱を受け、地域の子どもの健全育成を支えるボランティアです。社会人や大学生を中心に「ワンパクスクール」「ワンパクサマーキャンプ」などのレクリエーションや野外活動を企画・実施し、子どもたちの良き「お兄さん・お姉さん」

として活動しております。専門職ではなく、実際のふれあいを通じて広義の相談活動を行い、相談員自身もやりがいや成長を感じながら活動しています。

子どもと関わることに興味がある方、ボランティアを通じて新しい挑戦をしたい方など、私たちと一緒に活動いただける方を募集しております。



所沢郷土かるた大会

令和7年3月8日、こどもと福祉の未来館で開催しました。市内の各児童館で行われた予選大会を勝ち抜いた総勢63名が、熱い戦いを繰り広げました。

個人戦と団体戦が行われ、試合結果は次のとおりです。
1・2年生の部
優勝 河野 響子（みどりB）
3・4年生の部
優勝 大野 智美（つばめ）
5・6年生の部
優勝 菅原 愛純（ひばり）
団体戦
優勝 すみれ児童館



大会の様子

所沢郷土かるた 写真コンテスト作品募集

「親子で再発見！所沢郷土かるた写真コンテスト」を実施します。詳細はこちらから！



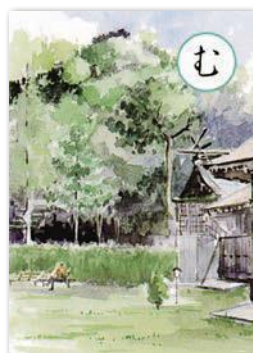
かるた札紹介

広報紙わかたけでは、かるた札の連載をしております。今回は「む」の札です。

むらびと
村人が

総出で築いた

あらはたふじ
荒幡富士



明治時代の荒幡地区において、当時行われていた行事やお祭りだけでは村内の和が図れないと憂えた有志が、村民が一つになることを願い、人工の富士山を村民総出で築きました。完成までに15年の歳月を費やしています。

各種事業の報告

定期総会

5月14日(水)、市役所8階大会議室にて開催しました。

令和6年度事業及び決算報告、令和7年度予算及び事業計画について審議され、すべて可決されました。

ジュニア卓球大会(第33回)

令和7年3月29日(土)、市民体育館メインアリーナにて開催しました。試合結果は次のとおりです。

- ・小学生の部
 - 【男子】優勝 荻山 晃成
 - 【女子】優勝 藤代 萌永
 - ・中学一年生の部
 - 【男子】優勝 三上 健斗
 - 【女子】優勝 宇尾野 有咲
 - ・中学二年生の部
 - 【男子】優勝 高木 慧之介
 - 【女子】優勝 植野 らん
- 選手の皆さん、お疲れ様でした！



少年野球大会(第57回)

【時】6月22日～7月6日

【成績】

- ・Aリーグ
 - 優勝 新所沢ライノーズ
 - 準優勝 西富ファイターズ
 - 3位 所沢南ビッキーズ
 - 3位 富岡レッドアローズ
- ・Bリーグ
 - 優勝 小手指ファイターズ
 - 準優勝 泉ホワイトイーグルス
 - 3位 新所沢ライノーズ
 - 3位 高峰タイガース

←始球式



→試合の様子

決勝戦は7月6日(日)、航空記念公園野球場で開催しました。
どの選手もチームのために打って、走って、守って、一生懸命試合に励みました。

少年サッカー大会(第50回)

【時】8月24日～9月6日

【成績】

- ・小学生上級の部
 - 優勝 所沢ファルゴランテJr. A
 - 準優勝 所沢ウィングスFC J.A
 - 3位 柳瀬レッドローズジュニア
- ・小学生中級の部
 - 優勝 FC・MEIGAKU
 - 準優勝 所沢ファルゴランテJr. A
 - 3位 所沢ファルゴランテJr. B

決勝戦は9月6日(土)、所沢航空記念公園多目的運動場で開催しました。

厳しい暑さの中、懸命にボールを追いかけて、チーム一丸となって戦いました。
優勝チームの皆さん、おめでとうございます！

▲決勝戦の様子



信号機

SNSなどで、自身の意見を発信できるようになった近年、急に批判的な言葉が目立つようになったと感じています。



さまざまな意見を交わし合え、個々の「主張」や「感情表現」が出来る時代を作ってくれた先人たちに感謝しながらも、簡単に人を非難できる社会に、疲れを覚えることもあります。

どのような世界でも、結果を上げるための日々の努力は、はた目には見えにくいもの。長い積み重ねの連続です。一方、「叩く」という他者を攻撃してしまうコメントは、一瞬でできると思うのです。

否定的な言葉があふれるようになった昨今、大切にしたいのは「他者へのリスクベクトル」。敬意の気持ちがあれば、関係は成立しないと考えます。

人と人との関係性が問われるいま、特に大切にしていきたいと思っています。

(三浦光子)

編集後記

一面に、岩間新教育長からご寄稿をいただきました。ありがとうございました。

最近、ジュニア推進員の活躍を頼もしく感じています。七月に行われた、青少年の被害・非行防止強調月間街頭啓発キャンペーンに女子中学生二人が参加、啓発物を市民に配布していました。また、毎年行われている「家庭の日」作文表彰式では、司会を中学生が担当していました。若い力を感じています。

(道又一枝)

●編集委員

- ▽仲 修一 ▽道又一枝
- ▽三浦光子 ▽江口庸介

●まんが作 島田孝行

●「わかたけ」がダウンロードできます。



●わかたけ編集委員を募集しています！
興味のある方は、事務局までご連絡ください！